

令和3年度 学校評価総括（計画）表 香芝市立旭ヶ丘小学校

教育目標		「明朗・誠実・友情」の校訓のもと「判断力・表現力・創造（想像）力を身に付け、命を大切にすることの育成」を目指す。 ～明日も行きたくなる「笑学校」～					総合評価	
運営方針		あいさつ運動を基盤として、確かな学力と豊かな感性を身につけさせると共に、規範意識の向上を目指して生きる力を育成する。						
前年度の成果と課題		本年度の重点目標						
<p>○児童会活動を中心としたあいさつ運動の推進により、あいさつがきちんとできる児童が増えるよう、学校全体で取り組んだ。</p> <p>○本校の研究主題であるプログラミング学習の授業研究、教材研究を積極的にを行い、自己の指導力の向上に努めた。</p> <p>○課題や諸問題に対して、学校・学年・各部等に対応できるよう、組織の整備を図り、組織的に対応できる体制の構築を目指した。</p>		(1) 児童一人一人に基礎的・基本的な学力を身に付けさせ、自分のよさを発揮し、意欲的に学ぶ児童を育成する。				B		
		(2) 人権尊重の精神に徹し、差別に対する正しい見方・考え方を培い、差別に立ち向かう意欲と実践力を養うと共に、豊かな心を育て、自他共により良く生きる道徳的実践力を培う。						
		(3) 「あいさつ運動」や「聴く話す活動」等を通してコミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係の構築に努める。						
		(4) 体育的活動の充実や運動遊びの奨励を図ると共に、安全教育・食育の充実を図る。						
		(5) 地域とともにある学校づくりの推進とコミュニティ・スクールの構築を図る。						
教育活動や分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	評価	成果と課題（評価の分析）	課題の改善策等	学校関係者評価		
学習指導	基礎学力の定着	反復練習、小テスト、音読等に積極的に取り組み、読み・書き・計算等の基礎基本の定着を図る。	A	A	計算力・漢字習得力の向上を図るため反復練習が必要であるが、家庭学習における効果も期待したい。今後保護者に家庭学習の意義を伝えていく必要がある。	○反復練習、ドリル学習を重ね、基礎基本の定着を図り、低学力傾向の児童へのきめ細かな指導を目指す。 ○基本的な学習習慣が身につくように、繰り返し指導を続けていく。	○「児童は学校へ行くのが楽しそうである」という問いや、「運動会や発表会などの行事に楽しく参加している」などの問いに対して、保護者や地域の回答から高い評価を得ていると分析できる。本校の教育目標のサブテーマである「明日も行きたくなる笑学校」の実現に近づいていると言える。学習指導においても「子どもの興味や意欲を引き出す授業が行われている」という問いに対しておおむね肯定的な回答を得ているが、さらに授業改善や教材研究の質を高め、より肯定的な回答が得られるよう、職員の時間管理を意識しながら授業準備に費やす時間の質と量の確保を進めていきたい。	
	読書活動の充実	読書活動を通して、言葉を学び、豊かな感性や表現力、想像力の育成を図る。	A		朝の読書活動が定着し、毎週一冊の貸出しも充実しており、読書習慣が身につけてきている。	○児童の学習状況や学習態度について、家庭と連携を密に図り、家庭学習の意義について周知してもらう。 ○朝の読書活動の継続と、各学級週1時間の図書館配当の時間を有効に活用し、読書に親しみ、豊かな感性と心情を養うと共に、知識や語彙の量を増やす。 ○指導計画に基づき、学習を進めていくと共に、言語活動をより積極的に取り入れ、児童が主体的に活動できる授業の創造に努める。そのために教材研究に努め、常に学習形態や指導法の工夫・改善を教師間で切磋琢磨して取り組む。実践した内容を職員全体が共有できるような情報交換に努める。 ○児童一人一人が活動の目的をしっかりと持たせるために教師自身が「めあて」や「何の力を育てるのか」を明確に持つことが大切である。そのことに基づき、児童が主体的に取り組み、深い学びが得られるよう指導方法の改善を図る。		
	指導方法の工夫改善	言語活動を取り入れた授業の創造に努め、思考力、判断力、考察等の表現力の育成を図る。	B	B	各教科において言語活動を重視した授業を展開しているが、説明、考察等の表現力の育成には課題が残る。			
		授業研究・教材研究を深め、常にねらいを明確にした授業を工夫している。	B		多忙により準備の時間や担任間で互いに意見交換をする時間の確保ができない現実がある。			
		しっかりと学習習慣が身につくよう細やかな指導を日々継続し、落ち着いた学習環境づくりに取り組む。	B		授業開始のあいさつを初め、学習姿勢や聴く態度の育成に努めている。全職員が共通理解して学習規律を徹底していくことが課題である。			
特別活動	児童が自主的・主体的に活動する態度を育てる指導に努める。	B	B	今年度は学校行事で実施されなかったものが多かった。その中で、児童の自主性や主体性をどのように発揮させるか課題が残った。				
	学級活動の時間を確保し、学校・学級生活の充実・向上や生活上の諸問題の解決に向けた活動を進める。	B		学級活動の時間は確保されているが、計画的に話し合い活動が進むための改善が必要である。				
生徒指導	あいさつ運動の推進	学校や地域で進んで挨拶をする子どもの育成を図る。	B	B	計画委員による朝のあいさつ運動によりあいさつをする児童が増えつつあるが、自分から進んであいさつをする児童は少なく、地域でのあいさつも希薄である。	○あいさつ運動のあり方について全職員で見直し、さらなる高まりへとつなげていく。そのためにTPOに応じた挨拶の仕方や、地域の方々へも積極的に進めるよう児童の育成を目指して取組を継続していく。	○保護者や地域の評価からは、社会のルールを守る態度を育てる指導については肯定的に捉えていただき、規範意識の向上に一定の評価を頂いている。しかし、具体的な指導については、例えばあいさつの充実や廊下での安全な歩行、個々の職員の指導方針の徹底については若干課題の残る結果となった。児童会活動を中心にあいさつ運動の推進に取り組んでおり、今後も継続的な取組が必要である。また、職員の指導内容についても情報交換、共通理解の機会を増やし、同じ指導方針で進めていくことも今後の課題である。	
	基本的生活習慣	基本的な生活習慣や集団生活のルールやマナーを守ろうとする規範意識を育てる。	B		廊下の歩行やトイレの使い方等において課題が残るルールやマナーを守ろうとする意識を高める必要がある。	○ルールやマナーの必要性を実感できる指導や理由をしっかりと理解させることを徹底し、守ることの大切さを実感させる。そのことを全教職員が共通理解のもと同じ歩調で指導していく。		
		相手や場面に応じた話し方や、相手の思いを受け止めようとする聴き方ができるように指導する。	B	B	各学級での指導により、聴く態度の向上は見られるが、相手にうまく伝えられないことによるトラブルも時々あり、さらに指導を高めていきたい。	○清掃指導においては、まず美しい環境を整え、その良さを実感させる。更なる美化意識のレベルアップを図りたい。そのためには、清掃用具の確保や美化委員会による啓発等、年間を通じた計画的な取組が必要である。		
		進んで清掃に取り組み、美しい環境をつくらうとする態度の育成を図る。	B		意欲をもって清掃をする児童とそうでない児童の二極化が見られ、意欲的・主体的に取り組む姿勢を育てる必要がある。	○細やかな児童観察、報告・連絡・相談の徹底、全職員の共通理解を怠らないようし、いじめの絶無に取り組むと共に、いじめ対策委員会を機能させ、組織的対応を図っていく。また、何よりも日頃の児童観察と教師と児童との関係づくりがしっかりと構築されることが重要であることを再認識したい。また、携帯やスマホを使っての誹謗中傷を防ぐため、現在の取組以上に外部団体の授業も視野に入れながら、児童や保護者へ啓発していく必要がある。		
	いじめ対応	日々の子どもの生活を観察し、いじめの萌芽に気づく。	B	B	日々の児童の実態をよく観察し、迅速に対応しているがいじめに気づけない現状もある。更なる観察や関係づくりが必要である。			
子どもの生活から、気づいたことを職員間で共有し、組織的に対応する。	A	いじめ対策委員会の充実により、学校間、学年間での情報交換がよくなっている。今後アンケート調査を中心とした実態把握とその対応を協議する校内委員会の充実を図っていきたい。						

人権・道徳教育	豊かな人性格形成	人権尊重に関わる様々な課題を共通理解し、指導方法について、全教職員で話し合っている。	B	B	人権教育推進計画について共通理解する場はあるが、時間の確保が難しく、日常的な話し合いはまだ十分とは言えない。	○道徳推進教師を中心に推進体制を整えるとともに、年間指導計画に沿った実践を通して、充実を図る。 ○本年度はコロナ禍において地域の人材を積極的に活用することはできなかったが、身の回りにはいろいろな人材がいることを知り、理解していくために積極的に地域の人材をゲストティーチャーとして招き、活かせるようにする。 ○研究・研修の機会を積極的に持ち、教師自身が自分の言動を見直し、教師自身の感性や人権意識を磨いていく。	○いじめのない学校づくり、また、児童が悩みや不安を相談しやすい学校づくりに向けては本校の道徳教育や人権教育で進めている。保護者、地域の評価においてもおおむね肯定的な回答を頂いている。今後も児童が安心して通える学校づくりにさらなる現状の把握と人権教育がどの教科指導にも根付く授業づくりを進めていくことが大切である。	
	集団づくり	一人一人の子ども理解に努め、なかまを大切に、みんなで支え合う質の高い集団づくりに努める。	A					A
特別支援教育 教育相談	個に応じた指導	一人一人のよさや、可能性を伸ばす指導に努め、社会自立への能力や態度を育てる。	A	A	特別支援学級児童の指導においては、個々の実態をよく把握し、伸ばすための適切な指導が行われている。	○特に配慮を要する児童についての共通理解を図り、全職員で指導体制の整備を引き続き行う。 ○特別支援学級在籍児童の理解において指導計画を作成し、児童の発達段階に合わせて指導していく。 ○支援対象児童の教に、例年、人的保証が追いついていない現実がある。その中でもより効果的な支援の仕方を追究していきたい。	○交流学級の児童が特別支援学級に入学している児童についてどのように理解しているかを把握し、継続的な取組が必要である。	
		児童のニーズに応じた指導の充実を図る。	A					A
	組織・体制	児童の状況を把握し、改善に向けて校内体制が整備され相談が密に行われている。	A	A	A	特別支援コーディネーターを中心として体制はよく整えられている。しかし、児童が特別な支援を要する児童の理解をしているかについては課題が残る。		
体力の向上	教科・学校行事	体力や運動能力向上のための取り組みを進め、体力向上を図る。	A	A	A	○体育主任を中心に、年間計画を毎年見直し、教材教具の引き継ぎも円滑に進め、授業の工夫改善に繋がられている。 ○限られたスペースを有効に活用できるような運動遊びの方法を追求し、体育的行事や体育的活動に生かしていく。 ○体力テストの結果を基に、重点的に課題克服を図っていく。	○体育主任のリーダーシップの下、学年間の授業展開の検討を重ね、指導法のさらなる工夫改善を図る。 ○限られたスペースを有効に活用できるような運動遊びの方法を追求し、体育的行事や体育的活動に生かしていく。 ○体力テストの結果を基に、重点的に課題克服を図っていく。 ○マスクの徹底、黙食など新型コロナウイルス感染拡大予防の徹底に努め、引き続き活動を工夫していく必要がある。	
	健康・食育	健康の保持増進に努める取り組みを継続的に行う。	A	A				養護教諭、栄養教諭による授業が充実し、健康や安全に関する意識は高まっている。学年便りや参観等で保護者への啓発も図っている。
教育目標 学校運営	教育目標	学校教育目標が、教育活動を進める上で活かされている。	B	B	B	○引き続き学校教育目標の共通理解のもと、それを反映させるような学年・学級目標や各部の目標を設定させ、達成するための取組を進める。 ○引き続き時数管理を行うと共に、教務主任を中心に年間指導計画に基づいた運営を行えるように定期的に各学年に現状を伝えていく。 ○職員の年齢や経験を考慮した構成を行うと共に、負担の偏りが無いよう校内組織を定期的に見直し改善して全体が機能していくようにする。	○教育目標を保護者や地域に発信する機会は学年だよりや学校だより等があるが、学校関係者評価の結果からも積極的に発信し保護者や地域におおむね理解されていることが伺える。目標の具体性についても肯定的な評価をいただいております。引き続き本校の教育目標や指導方針を積極的に周知していくことが大切であると改めて認識をしている。	
	組織運営	年間授業時数の確保と週課程の運営ができています。	A	B				時数管理のもと、標準授業時数の確保に努めているが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学校閉鎖や学級閉鎖が行われた。そんな中、パソコンを活用した双方向の授業を実施することができた。担任の計画的な授業運営が引き続き課題である。
		学校・学年・学級相互の連絡が円滑で学校全体として機能している。	B	B				学年内での連携はよくとれていると言える。常に報告・連絡・相談を意識している。異学年との情報共有は課題として残る。
開かれた学校づくり	情報発信	学校だより・学年(学級)だより等で、学校の様子や活動の様子を家庭や地域に伝えている。	B	B	A	○学校の様子を通信等で積極的に発信し、家庭や地域に理解してもらえるようにしていく。ホームページの更新も滞ることのないように努めていく。 ○学校評議員制度や学校コミュニティ協議会の制度を生かし、保護者や地域住民等の意向を学校運営に反映して学校サポート体制を更に充実させていく。 ○積極的に情報提供を行い、保護者の信頼を得ると共に良好な関係を築けるように努める。 ○幼保・小・中の連携をはかり、スムーズな連携を進める。	○コミュニティ協議会の取組は本年度も大きな制限を受け、予定していた活動が行えなかった。そんな中、工夫しながら取り組むことができた。保護者や地域の評価からも一定の理解を得られている。本年度から発足した学校運営協議会(コミュニティスクール)において、保護者や地域のさらなる理解を得ながら進めていきたい。	
	家庭・地域との連携	地域や外部の人材を活用した授業や交流・環境づくりを推進する。	A	A				コミュニティスクールの発足に向けて、従来の組織的なボランティア団体による学校支援のさらなる充実を進めてきた。今年度は、制限のある中、工夫して取り組むことができ、来年度も発展させていきたい。
		家庭と連携をとり、児童理解に努め、共に課題の解決に取り組む。	A	A				コミュニティ協議会においてPTAのサポートも有効に機能し、より連携が深まっていると言える。
安全管理	危機管理	安全な生活について理解させ、自ら身を守る意識や行動力を身に付けさせると共に体制を整える。	B	B	B	○学校設備の定期的な点検を怠らず、不具合な箇所は速やかに対応し安全管理に努める。 ○様々な場合を想定した訓練の実施を行い、危機管理の徹底を図る。 ○校外での安全確保を図るため、PTAや地域との連携を密に図る。		
		家庭や地域と連携して、児童の安全確保に努めている。	A				A	児童の登下校や、危険箇所についてPTAや地域の団体と連携して安全確保に努めている。更なる連携を深めていきたい。
	施設・設備	児童を取り巻く環境を安全且つ美しく整える	B	B	日常的な安全管理と共に各学期ごとに安全点検を行い安全確保に努めていたが、より設備の安全を図るために、不定期にも点検をしていく必要がある。			
研究・研修	授業力	公開授業や授業研究、教材研究を積極的に行い、自己の指導力の向上に努める。	B	B	B	○公開授業は踏襲し、児童の課題となる力は何かを検討しながら、次年度の研究教科を設定したい。 ○本年度、パソコンを活用した双方向の学習を行うことができた。さらに、教師一人一人の活用能力を向上できるように研修に努めていく。 ○研究テーマに沿った授業を展開すると共に学年でまとまった教科研修を行う。 ○指導法の向上を目指して、限られた時間の中、研修の機会を多く持てるように計画していく。		
	研修・研究	研修の成果(校内・校外)を積み重ね、日頃の教育実践に生かしている。	A	B			研究テーマに沿った授業を日々展開するよう努めている。また、教師間で自主的に活用方法の共有を行うことができた。	
		学年でまとまって教科研修を行い、成果を上げている。	B	B			研究の時間の確保が難しい現状がある。	

※評価はA・B・C・Dの4段階